

ナミハダニ黄緑型の殺ダニ剤感受性

ナミハダニ黄緑型は俗にシロダニと呼ばれ、県内ではイチゴ、ナス、キクをはじめとする様々な農作物を加害します。本種はいわゆる高度薬剤抵抗性害虫であり、現在農業登録されている殺ダニ剤の多くで効果の低下が見られます。本種は抵抗性の発達が早いため、新しく登録された効果の高い殺ダニ剤でも、連用すると数年で効果が低下します。

そこで今回は、比較的最近に新しく登録された殺ダニ剤であるクロルフェナピル（コテツ）、ミルベメクチン（コロマイト）、アセキノシル（カネマイト）、ビフェナゼート（マイトコーネ）に対する感受性検定の結果を報告します。

検定結果

検定には、県下7市町村の8圃場で採集した系統を使用しました。表1の結果を見ると、ミルベメクチン、アセキノシル、ビフェナゼートに対しては明らかな感受性の低下は認められませんでした。しかし、クロルフェナピルについては、圃場によっては感受性がかなり低下して

いました。ナミハダニ黄緑型のクロルフェナピル抵抗性遺伝子は、優性遺伝することが知られており、抵抗性発達がかなり早い薬剤であると考えられます。そのため、現在効果が高い圃場でも、今後連用を重ねるとすぐに感受性が低下すると予想されます。

今後のハダニ防除対策

今回の検定では、ミルベメクチン、アセキノシル、ビフェナゼートの3剤は感受性が全般に高く、生産現場でも効果の高い、いわゆる「切り札剤」として使用できると考えられます。しかし、今は効果が高いこれらの薬剤についても、連用を続けるといずれ感受性が低下してくると考えられます。今後、これらの薬剤に対する感受性低下を防止し、ハダニ防除に使える「武器」の数を少しでも多く確保しておくためにも、殺ダニ剤のローテーション散布や周辺雑草の適切な管理などの耕種的防除に積極的に取り組んでいきたいものです。

（虫害防除チーム 井村 岳男）

表1 ナミハダニ黄緑型の各種薬剤に対する感受性(補正死虫率%) (2001年)

採集地	採集作物	クロルフェナピル フロアブル 2000倍	ミルベメクチン 乳剤 1500倍	ミルベメクチン 水和剤 2000倍	アセキノシル フロアブル 1000倍	ビフェナゼート フロアブル 1000倍
橿原市四条町	イチゴ	12.8	—	98.3	—	97.3
天理市櫛本町	イチゴ	32.5	—	100	—	100
明日香村橘	イチゴ	70.7	—	98.6	—	100
五條市岡	イチゴ	98.5	100	—	—	100
新庄町山口	キク	—	100	—	—	100
新庄町寺口	キク	87.8	100	—	100	100
下市町阿知賀	キク	77.3	100	—	100	100

※検定はインゲンリーフディスク法で回転式散布塔を用いて行った。

お知らせ

平成13年度成果発表会を3月1日に行います。
開催日時：平成14年3月1日（金）13時～
開催場所：農業交流館2階大研修室
テーマ：エンドユーザーの視点に立った農業・園芸技術
詳しくは農業技術センターのホームページをご覧ください。

農技情報 No.111

2002年2月25日印刷発行

編集発行 奈良県農業技術センター
TEL 0744 (22) 6201
FAX 0744 (22) 8068
URL <http://www.naranoshi.pref.nara.jp>
印刷 株式会社アイプリコム